



□本號口繪日枝神社は、日本水彩畫會研究

所別科卒業生田上勉輔氏の卒業製作にして

原圖はワットマン四ツ切大に御座候

□田上氏は職を遞信省に奉ぜられ、時には

職務のために日曜日さへも役せらるゝこと

あるに拘はらず、去る三十九年一月、研究

所がなほ水彩畫講習所といふて、神田三崎

町の幼稚園内にありし頃より絶えず通學せ

られ、なほ夜間は、太平洋畫會或は白馬會

の研究所に通ひ、寸陰を惜みて研究に餘念

なき將來有望の青年に御座候

□この繪は毎日二三時宛を一週間以上もか

ゝりて寫生せられしものにして、繪畫とし

て、多少の缺點なきにあらざれど、描寫親

切にして、自然に對して極めて忠實なる體

度は大に此繪の價値を増せしこと、存候

□中繪は印刷の都合にて不結果に終り候、

次號は特に注意致させ可申候

□丸山晚霞氏の小笠原島に於ける獲物は、

繪に文に材料山の如く有之候。是等はいづ

れ整理の上、一部の書を編まるゝ筈に候が

其内水彩畫に關係深き分をさいて、本誌臨

時増刊として本月中旬發行致候豫定に御座候、

□隨て本號限り誌代前金切の御方は、其頃

迄に御送金有之度候。なほ御送金は、振替

貯金(登記料を加へ)に願ひ度、郵便爲替若

くは切手封入等にては往々途中紛失のおそ

れ有之候。

□特別讀者は引續き二三の申込有之候につ

き、漸次本誌の内容を善美に致すべく候。

なほ六月號には精巧なる石版畫一葉を加へ

可申筈に候

□特別讀者の制は、應募者にありては、毎

月僅少の月賦拂込によつて一葉の額縁付水

彩畫を得べく、編者はこれによつて雜誌に

光彩を加へ得べく、一般讀者は同一代價を

以てよりよき雜誌の配布を受くべく、實に

一舉三得と可申候。希くは此際進んで御申

込ありて、連月三葉の水彩畫を以て本誌を

飾られんことを切望致候

近事雜聞

△日本水彩畫會研究所に於ては二月二十三
日月次會を聞き、石井柏亭氏を招待して生

徒成績品の批評及び講話を請ひたり、出品
の繪畫は四十余點なりし

△美術趣味の一向振はざりし大阪に於ては

今回松原氏等發起のもとに大阪眞美會なる

もの設立せられ和洋畫及圖案の研究所を設

け揮毫の應需、鑑定、紹介、交換、顧問、

建築裝飾圖案等美術上のこと一切の取扱を

なすべく事務所を同市南區鹽町二丁目に置

かれたり猶聞く處によれば住友家に於ては

同市に私立美術館を設けらるゝ由。

△日本銀行内有志の繪畫會春季大會は、去

月八日午込清風亭にて催され、同時にその

第二回展覽會を開かれたり、出品者は大澤

藏田、小高、宮本、三井、山本、山口、石

井、藤本、三井所、福永、大藤、伊藤、加

藤、井上の諸氏にして、出品四十余點、尙

參考品として専門家の作品數點を陳列し頗

る盛會なりし

△横濱みとり洋畫會にては幹事の熱心なる

努力により會員既に五十名に近く本月十八

十九兩日第一回展覽會を開く由